

小中一貫教育推進室だより

平成28年10月31日

1 校長連絡協議会で小中合同授業研究会に関する協議行われる

平成28年9月30日（金）、那覇市役所に於いて第4回校長連絡協議会が開催されました。今回は、今後の小中一貫教育の取り組みの中核になる「小中合同授業研究会」について協議していただきました。各グループの協議内容の概要について、ご紹介します。

神原中グループ・安岡中グループ

1. 小中合同授業研究会の現状と課題

(1) 現状

- ・年間3回…「思考力・判断力・表現力を育てる「かく活動」の工夫」をテーマに実施。
- ・「授業における基本事項」を作成し、小・中学校全職員で実践。
- ・合同授業研は校内研と一緒にやっている。
- ・小中それぞれの校内研テーマの視点で見ている。
- ・学び合い、高め合う活動を行い、個々の視野を広げるようにしている。

(2) 課題

- ・どの教科で行うと小中で共有できるか。教科ごとの共通実践が難しい。
（やりやすい教科とやりにくい教科がある）
- ・研究協議の内容をどう深めていくか。
- ・どの視点を共有するか。（小中の違いをふまえた視点づくり）
- ・グループ規模が大きく、小中の連携をどう深めていくのか。
- ・校内研に参加しているので研究会の深まりがない。
- ・校内研との整合性。

2. 課題改善のための今後の取組

- ・「授業づくり」の視点を明確にする必要がある。
- ・「学力向上」での視点を共通での視点とする。
- ・小中一貫教育コーディネーターを中心に視点を整理し、次年度の取組にいかす。
- ・共通実践事項「相手に伝わるように発表（話す）する」がある。授業づくりにも繋がるのでしっかり実践したい。



寄宮中グループ・首里中グループ

1. 小中合同授業研究会の現状と課題

(1) 現状

- ・小小連携の視点からグループ校の小学校の校内研に参加。
- ・国語、算数以外の教科についても「9年間の学びのつながり」の意識が高まっている。
- ・それぞれの発達段階に応じた授業がみえてよい。
- ・小中の系統がみえるようになった。
- ・学校の先生方が変化。（生徒への言葉かけ、授業のすすめ方）
- ・専門外の授業研究会へ参加しても意見が言え、内容も充実してきた。
- ・中学校の専門的な示唆があり、特に算数数学授業研究会における意見交換はよかった。
- ・小中の系統性のある特別支援教育への認識が高まった。
- ・夏休み明けの開始のずれを利用し小学校の先生が中学校の一日授業参観を実施。

(2) 課題

- ・小学校が、同日開催のため、中学校が小学校の合同授業研究会に参加する場合は職員が分散する。
- ・研究会後の成果と課題の共有。
- ・足並みを揃えた言語活動の充実に向けた取組。
- ・校内研とのすり合わせ。

2. 課題改善のための今後の取組

- ・授業づくりにおいて、「系統性」を意識し小中一貫教育の取組を充実させる。
- ・時間の位置付けの工夫。（子どもの育ちをいつでも見る事ができる、行き来を自由に）
- ・授業参観の視点を揃える。
- ・小中一貫教育の効果がたいへん充実してきた。行政へ今後の継続支援をお願いしたい。



那覇中グループ・仲井真中グループ

1. 小中合同授業研究会の現状と課題

(1) 実施状況

- ・ 昨年は1回実施。昨年の反省から6月に那覇小（低中高学年で授業）で実施し、10月に那覇中学校で実施予定。
- ・ チェックシートの共有。
- ・ 分科会→全体会で共有の流れ。
- ・ 年間1回実施...9月に仲井真小（5年生1学級（国語））で実施。仲井真中から国語科教諭のみが参加。
- ・ 授業研究会の位置づけがなく、1年目は生徒指導のみの連携。
今年度は3部会（学力向上・生徒指導・行事交流）で研究を深める体制ができた。
- ・ 月1回推進部会を開催—グループ校の校内研のベクトルをあわせる取り組み。各学校長は職員へ同じ視点で話ができるようにしている。リーダーの意識をそろえる。
- ・ 仲井真中学校は小学校職員が授業参観できるように随時公開授業をしている。

(2) 成果

- ・ 昨年からの取組により、今年の中学1年生はスムーズに学校生活を送っている。
- ・ 3小学校の小小連携をするきっかけになった。

(3) 課題

- ・ グループ校の校内研のベクトルを揃えること...今年度で改善を図る。
- ・ 学習規律を揃える。

2. 課題改善のための今後の取組

- ・ 今後は合同授業研究会を全校（4校）で実施できるようにしていきたい。
- ・ グループ校の校内研に小中の教諭も参加できるようにする。
- ・ 複数の教科、学年の公開授業の開催小学校での授業研究会も低中高学年で実施し、中学校職員も全員が参加できるようにする。
- ・ 共通した授業参観シート、職員間の視点を揃える。（児童生徒へのアンケートはすでに済んでいるので、変更をみとることができるようにする）
- ・ 今年度中で次年度の合同授業研究会の日程は教育計画へ位置付けておく。
- ・ 推進部会の役割...リーダーの意識を揃える。
- ・ 職員同士の交流の場を作る...和やかな雰囲気のある場を設定しお互いの意見を交換する。（みんな同じ視点で小中一貫教育に臨んでいる態度の確認）

**小禄中グループ・石田中グループ・真和志中グループ**

1. 小中合同授業研究会の現状と課題

(1) 実施状況

- ・ 中学校公開授業...夏休み明けすぐ。（小学校の授業カットなしのため）
- ・ 小学校公開授業...同日開催。（中学校は2つの小学校に分かれる）（最小限の授業カット）
- ・ 小小連携あり。
- ・ 授業参観の視点は県の授業参観シートを参考に各学校校内研の視点もプラス。
- ・ 授業参観の視点を共通実践内容と揃える。
- ・ 英語の授業...小中交互に行う。
- ・ 授業カットを避けるため6校時に実施。
- ・ 小中それぞれの合同授業研を2日空けて実施。
- ・ 中学校の校内研に小学校職員も参加。
- ・ 授業参観シートの活用...共通実践の観点を入れる。（かく活動）

(2) 成果

- ・ 小学校の学びが中学校へどうつながるかの意識（各教科間の連携）が高まった。
- ・ 小・中学校の先生方同士、話がしやすくなった。
- ・ 授業研究会において指導助言を小・中学校の先生方が一緒に聞くのは良い。
- ・ 小学校の既習事項について知る機会となっている。
- ・ 特別支援教育において、小学校の取組を中学校で取り入れる動きがあった。
- ・ 子どもたちの学習活動（かく活動）が小学校から継続していることが理解できた。

(3) 課題

- ・ 日程変更が簡単にできない。
- ・ 授業研究会の持ち方...ワークショップ型がマンネリ化していないか。

2. 課題改善のための今後の取組

- ・ カリキュラムまで作成するのか？
- ・ できることを少しずつやっていくことが大事。



上山中グループ・石嶺中グループ**1. 小中合同授業研究会の現状と課題****(1) 実施状況**

- ・教科以外にも道徳・特別活動も入れる。
- ・授業参観の視点は「授業参観シート」を作成し統一する。
- ・小中合同授業研究会はまだ実施していない。
- ・共通実践項目をどうするかが目下の課題。
- ・授業参観の視点を各部長（教頭）にイニシアチブをとってもらって策定中。

(2) 成果

- ・中学校の「授業評価シート」がとても参考になっている。

(3) 課題

- ・小と中の学びのつながりをどうするか。
- ・評価の仕方。
- ・乗り入れ指導についてはまだまだこれからの部分がある。
- ・参観シートの活用。
- ・ノートの使い方等「教科の壁」について。
- ・小中合同授業研究会で出た課題や成果をどうまとめていくのか。

**2. 課題改善のための今後の取組**

- ・参観シートは学習部会の共通テーマに基づいたもので、市・県のを参考にして作成。
- ・参観シートを全職員に配付して足並みを揃える。
- ・教科に特化した参観ではなく「授業づくり」に視点をおいた参観へ意識を揃える。
- ・小学校の学びをさらにステップアップさせる中学校の取組の充実。

鏡原中グループ・城北中グループ**1. 小中合同授業研究会の現状と課題****(1) 現状**

- ・小学校の授業づくりを中学校の教師と連携して行っている。
- ・「書く活動」「ノート指導」を中心に取り組んでいる。
- ・小中合同授業研究会には全員参加。
- ・小中で同一視点で研究を深められている。
- ・公開授業という形で実施している。
- ・2小学校は同日開催。

(2) 課題

- ・話し合い活動のさらなる充実。
- ・児童生徒の学習状況の分析が求められる。
- ・小相互の授業参観ができていない。
- ・学校職員規模の差により、公開授業ができるクラスに学校間差がある。
- ・小相互の授業参観ができていない。

2. 課題改善のための今後の取組

- ・小中のギャップ改善のため、児童生徒にアンケートを取ることで課題を把握し、対策を立てることが大切である。
- ・児童生徒の追跡調査を取ることで、小中一貫教育の実態を把握することが求められている。
- ・小中それぞれの学校に教科書をいつでも見れる場所に置いて、指導内容について教師間で理解を図ることでギャップを縮めることができる。

**金城中グループ・松城中グループ****1. 小中合同授業研究会の現状と課題****(1) 実施状況**

- ・学習部会テーマ：「思考力・判断力・表現力を育てる言語活動の充実～アクティブ・ラーニングの視点を意識した授業改善～」
- ・学習部会テーマ：「小中9年間を意識した「書く活動」の共通実践」

(2) 成果

- ・前年度作成した全教科の系統表を配付し、それに基づいて授業実践を行う。
- ・教科部会での協議を行い、小中、教科の壁を取り払うことで、授業研究会が充実。
- ・国語や算数・数学以外の教科（実技教科）を公開することで教材研究を深めることができる。

(3) 課題

- ・小小相互の授業参観がない。（小小を設定しようとする回数が増える）
- ・人事異動による新職員の意識の高め方。

2. 課題改善のための今後の取組

- ・5校時と6校時の設定ではなく、6校時と放課後の設定で授業時数の確保。
- ・全面実施になったので、市全体として統一した実践内容の提示。（年間スケジュールを含めて）



古蔵中グループ・松島中グループ

1. 小中合同授業研究会の現状と課題

- (1) 実施状況
 - ・今年度は城岳小と古蔵中で実施。
 - ・城岳小は低学年、中学年、高学年で分かれて実施。（すべて国語で）
 - ・古蔵中は4教科で授業公開。
 - ・松島中学校グループ・年間3回実施。（輪番制）
 - ・松島中グループ・基本は4教科の授業公開。
 - ・共通の授業参観の視点で参観している。
- (2) 成果
 - ・教材について、小学校、中学校それぞれの立場からの視点で意見交換ができた。
 - ・特別支援教育の視点からも授業研究会を実施。
 - ・「校長・教頭・コーディネーター会」授業研究会と並行して実施。
- (3) 課題
 - ・小中合同授業研究会のねらいの明確化。
 - ・小中合同授業研究会の間隔が短すぎた。
 - ・教師の小中合同授業研究会に参加する意識。



2. 課題改善のための今後の取組

- ・小中のつながりを意識するのであれば、小学校は年度後半に高学年を中心に、中学校は年度はじめに1年生の公開授業。
- ・様々な場面で「義務教育9年間を見通した指導」についての意識を持たせる話。
- ・まずは「お互いを知ること」からはじめる心構え。
- ・中1ギャップよりも学年間ギャップに着目した小中それぞれの取組。

2 主な予定(小中一貫教育関連)

<10月>

- 10月20日(木) 小中一貫教育コーディネーター研修会(市役所)
- 10月21日(金) 第3回教頭連絡会(市役所)
- 10月24日(月) 那覇市計画訪問(石嶺中学校)
真和志中G小中合同授業研究会(真和志中)
安岡中G小中合同授業研究会(安岡中)
- 10月25日(火) 神原中G小中合同授業研究会
- 10月26日(水) 那覇市計画訪問(松城中学校)
金城中G小中合同授業研究会(金城中)
那覇中G小中合同授業研究会(那覇中)
- 10月30日(日) やる気・元気旗頭フェスタ in なは(奥武山陸上競技場)
- 10月31日(月) 上山中G小中合同授業研究会(開南小)

<11月>

- 11月 2日(火) 松城中学校合唱コンクール
- 11月 4日(金) 城北中G小中合同授業研究会(城北小・大名小)
- 11月 7日(月) 石嶺中学校合唱コンクール
- 11月11日(金) 真和志中学校合唱コンクール
- 11月16日(水) 鏡原中学校合唱コンクール
那覇中G仲良くなろう会 合唱鑑賞会
首里中G部活動見学会
- 11月17日(木) 首里中G音楽交流会
- 11月18日(金) 第5回校長連絡協議会(市役所)
- 11月22日(火) 那覇市計画訪問(古蔵中学校)
- 11月25日(金) 小祿中G小中合同授業研究会(高良小)
上山中学校合唱コンクール
- 11月26日(土) 安岡中学校合唱文化祭
- 11月30日(水) 金城中中学校県指定研究発表会
鏡原中G小中合同授業研究会(小祿南小)



2016年 10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2016年 11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			